

2025 年度  
(令和 7 年度)

聖泉大学看護学部  
年次報告書

領域・委員会

# 目次

## 1. 領域活動報告

1-1	基礎看護学領域	1
1-2	成人看護学領域	3
1-3	老年看護学領域	5
1-4	母性看護学領域	7
1-5	小児看護学領域	9
1-6	精神看護学領域	11
1-7	公衆衛生看護学領域	13
1-8	地域・在宅看護学領域	15

## 2. 委員会活動報告

2-1	教務委員会	17
2-2	学生委員会	19
2-3	国家試験対策委員会	21
2-4	実習調整委員会	23
2-5	学術誌編集委員会	25
2-6	広報委員会	27
2-7	キャリアアップセンター委員会	29

# 1. 領域活動報告

## 1-1 基礎看護学領域

### 1. 構成メンバー

西山ゆかり教授、小林菜穂子准教授、高島留美講師、川端愛野講師、五十川響助手

### 2. 教育活動

基礎看護学領域では、「基礎看護論」「看護理論入門」「生活援助論Ⅰ～Ⅲ」「看護過程とヘルスアセスメント(解剖実習も含む)」「看護過程論」「補完代替医療・療法(選択)」「生活行動からみたからだのしくみ(選択)」「看護生涯学習論(選択)」「看護導入実習」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「地域統合実習」「卒業研究」15科目を基礎看護学教員5名で担当した。以下、詳細な内容を示す。

1年:「基礎看護論」「看護理論入門」では、看護の基盤となる「看護」「健康」「人間」「環境」の4つの概念、看護に関する法律や医療安全など、看護の考え方や看護実践をどのように理論に活用するのかを講義とGWを通して授業を行った。

「生活援助論Ⅰ」では、人が生活する上での「動くこと」「療養環境」「コミュニケーション」、看護者と対象者の安全を守るための「ボディメカニクス」「感染」について学習し、後期の「生活援助論Ⅱ」の基礎となる土台づくりを行った。実際に援助を行い看護援助の安全・安楽・自立・倫理・効率性などを踏まえてのケアを行うことができた。

「看護導入実習」では、基礎看護学領域が中心となり進めて行った。実習時期が6月で早期体験実習となるため、生活援助論Ⅰや基礎看護論の授業でも実習を意識して組み立て、学んだことが臨床でどのように実践されているのかを知り、看護の役割と機能や看護倫理などについて学生は学んだ。

「生活援助論Ⅱ(1年・後期・必修・60時間)」では、療養生活を支えるための「食べる」「排泄」「清潔」など日常生活行動の援助について講義と演習を行った。また看護援助の評価指標として、バイタルサイン測定の反復演習を行った。毎回、演習計画書を用いた事前・事後学習を行うことで、学生はエビデンスを踏まえた上で患者に応じたケアの必要性を理解し、看護援助の実際を体験することができた。

2年:「看護過程とヘルスアセスメント(2年・前期・必修・60時間)解剖見学実習を含む」「看護過程論(2年・後期・必修・30時間)」「基礎看護学実習Ⅰ(2年・前期・必修・45時間)」「基礎看護学実習Ⅱ(2年・後期・必修・90時間)」この4科目は、1年間を通して看護の展開を行う内容であり、講義と実習が連動する積み上げ式になっている。前期で誤嚥性肺炎の事例を用いて情報収集とアセスメントを中心に看護展開を行い、9月に臨地で実際に学生ペアで1名の患者を受け持ち、対象理解とヘルスアセスメントについて実践する。後期には前期で学習した看護展開を脳梗塞の事例を用いて行い、2月の臨地実習では一人で患者を受け持ち情報収集から看護計画を立案し、実践、評価修正までの看護展開を行った。

「生活援助論Ⅲ(2年・後期・必修・30時間)」は、診療の補助について学び、看護師の役割について理解を深める科目である。講義では事前学習をもとに、感染予防の技術、薬物療養と看護、検査と看護、呼吸を整える看護、患者教育などについて学習し、患者・看護師双方の安全・安楽を考慮した援助方法を修得できるように演習を行った。演習事例では、内容に応じて看護過程論での事例を用いて、連動させながら対象者に応じた授業を行った。

4年:「地域統合実習」「卒業研究」「国試対策」「就職支援」を担当した。

国家試験対策については、4～12月まで、週1～2回のゼミでの学習会を行った。また、学生たちが他者を教えることで知識の定着ができるように教員がサポートした。卒業研究では、2～3名のゼミを組み、各教員が担当して文献検索～計画書作成までを担当した。基礎ゼミ内での研究の進捗状況の報告や発表練習など、学生間での情報交換なども行った。

選択科目「補完代替医療・療法(1～4年の合同科目・選択・15時間)」「生活行動からみたからだのしくみ(4年・前期・選択・15時間)」「看護生涯学習論(4年・前期・選択・15時間)」については、本年度からの開講科目であり、4名の教員でオムニバス形式で担当した。補完代替医療・療法の科目については、本年度初めて合同で開講することができ、学年を超えてのディスカッションができ、1年生が4年生の意見を聞き、看護について興味を示していた。

「看護生涯学習」は9名の学生が選択した。4年間の学びの中での自己のキャリアや成長についても振り返り、5年後・10年後の看護職者としてのイメージを持てるようになっていた。また、学生は教員3名のキャリアについて、看護師から教員になるまでのキャリア発達に興味を示していた。

「生活行動から見たからだのしくみ」については、実習で実践した看護のエビデンスについて学習し、1～4年で学んだ内容を統合して、自らの看護について振り返る学習とした。

国試対策に関しては、今年度より東京アカデミーの対策ではなく、各ゼミでの対策に変更になったため、前期から1回/週、4～12月まで学習習慣がつくまで行った。前期は必修問題を中心に、教員の解説を加えながら講義形式で行ったが、後半は学生の知識が定着してきたので、学生主体で行った。

### 3. 研究活動

#### <論文>

- 1) 寺澤律子, 西山ゆかり:看護師の看護活動に対する意欲を促進させる病棟文化, 聖泉看護学研究, Vol.15, 11-20, 2026.
- 2) 田村聡美, 西山ゆかり:急性期病院に勤務する中堅看護師の認識する自己のキャリア, 聖泉看護学研究, Vol.15, 21-30, 2026.

#### <助成金による研究活動>

- 1) 西山ゆかり, 川嶋元子, 安孫子尚子, 中島真由美, 流郷千幸, 小林菜穂子:学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C),2021-2025年度.

### 4. 地域貢献活動

#### 1) 西山ゆかり

- ・彦根市立病院地域医療連携委員(2021年～2026年3月・現在に至る)
- ・キャリアアップ講座「研究方法の方法と進め方」講師(2025.5.23)
- ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」(2025.8.21)

#### 2) 小林菜穂子

- ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」(2025.8.21)

#### 3) 高島留美

- ・ナイチンゲール看護研究会・滋賀(代表)
- ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」(2025.8.21)

#### 4) 川端愛野

- ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」(2025.8.21)

#### 5) 五十川響

- ・「国宝五城合同床磨き・彦根城」(2025.8.23)・わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025 要約筆記ボランティア・HATO スタジアム 総合案内(2025.9.28)・近江八幡市立運動公園体育館 聴覚障害者バレーボール大会(2025.10.25)

## 1-2 成人看護学領域

### 1. 構成メンバー

古川智恵教授，馬場好恵講師，後藤直樹助教

### 2. 教育活動

1年：「成人看護論」成人看護学の基盤となる事項（発達課題，生活の特徴，職業と疾患，経過別の特徴と看護等）について，事前・事後の学習課題を活用し理解を深めた。

「看護導入実習」入学3か月目に病院で行われている看護活動を見学し，病院の機能，環境や看護の役割について学ぶ実習を行い，学生は看護を学ぶ上での基礎となる経験となった。

2年：「成人看護援助論Ⅰ」では，周術期およびクリティカルケア状態にある患者と家族の看護について講義と演習を組み合わせた授業を行った。演習では，術直後の観察や術後ベッドの作成，ME機器の取り扱いなどシミュレーション演習を行い，学びを深めた。

「成人看護援助論Ⅱ」では，胃がんの手術を受ける患者の事例を用いて周術期の看護展開を行った。演習では，グループワークやアクティブラーニングを取り入れ，能動的学習ができた。一方で，看護過程の科目を履修中であり，看護過程の展開は基礎的な確認にとどまった。

「成人看護援助論Ⅲ」では，慢性的な健康問題を持つ対象を理解するための基本的な考え方を理解する為，講義と演習を行った。事例に基づいたレポート課題を課し学びを深めた。

「リハビリテーション看護」では，病気や事故により機能障害をもちながら生活することを余儀なくされた患者とその家族の身体・心理・社会的側面を捉え，リハビリテーション期の看護について学びを深めた。演習では機能障害のある生活の工夫を体験し，学修を深めた。

3年：「成人看護援助論Ⅳ」では，悪性リンパ腫で薬物療法を受ける患者の事例を通して看護過程の展開を行った。薬物療法中の観察や副作用出現時の患者の寝衣・シーツ交換などの演習を取り入れた。リフレクションを活用し，フィードバックを行いながら教授した。

「がん看護ケア論」では，がんとともに生活する対象者を全人的に理解し，様々な治療を受けながら療養する患者の看護を考えることを目標として講義を行った。

「成人看護学実習（急性期）」では，臨地での実習を予定通り行った。生命の危機的状況から回復期に移行する患者を1～2名受け持ち，その患者と家族に対しての看護を学修した。

「成人看護学実習（慢性期）」では，臨地での実習を予定通り行った。慢性疾患を持つ患者を1～2名受け持ち，学内で振り返る時間を持つことで実施した看護の意味を考えた。

4年：「卒業研究」「地域統合実習」「看護師国家試験対策」

ゼミ生15名に対し，看護師国家試験対策として学習状況の把握および個別指導を実施した。地域統合実習Ⅰでは，複数受け持ちや各自のテーマに沿って臨地で学びを深めた。卒業研究では，学生の希望に沿った研究テーマで指導を行い，卒業研究計画書を作成した。

### 3. 研究活動

<論文>

1) 馬場好恵，古川智恵：卒後2年目ICU看護師が抱える職務遂行上の困難，日本職業・災害医学会会誌，73(5)，107-113.

2) 後藤直樹，古川智恵：緩和ケア病棟実習における看護学生の課題に関する文献検討，聖泉看護学研究，15，51-59.

<学会発表>

- 1) 古川智恵, 森京子：高齢糖尿病入居者が介護保険施設で療養を継続するために看護職と介護職が実践している協働。第30回日本糖尿病教育・看護学会，茨城県（優秀演題賞）
- 2) 井上添美, 古川智恵：インスリン導入後在宅療養となった独居高齢糖尿病療養者の在宅療養を支える訪問看護師の実践，第30回日本糖尿病教育・看護学会，茨城県（優秀演題賞）
- 3) 古川智恵：【高齢者・単身者医療の滞標】チームで取り組む高齢・単身社会におけるストーマリハビリテーション 南大阪地域における高齢・単身オストメイトへの支援 研究会活動を通してのWOCNの実践，第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会，大阪府（パネルディスカッション，座長兼パネリスト）
- 4) 古川智恵：社会的孤立にあるオストメイトが老いを生きていく意味 サクセスフルエイジングを目指して，第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会，大阪府（座長推薦優秀演題賞および会長賞）
- 5) 後藤直樹, 古川智恵：在留外国人糖尿病患者に外来診療でかかわる看護師の実践—文化的背景に焦点を当てて—，聖泉研究フォーラム 第2回発表会，聖泉大学。
- 6) 後藤直樹, 古川智恵：緩和ケア病棟実習における看護学生の課題に関する文献検討，日本がんチーム医療研究会，第36回研究集会，大阪府。
- 7) Naoki Goto, Chie Furukawa : A Literature Review of Challenges Associated with Telenursing (Telemedicine) in Japan, 16th ICN&29th EAFONS, (Kent Ridge, Singapore).
- 8) Haruto Watase ,Naoki Goto,Chie Furukawa : A Literature Review on the Content of Decision-Making Support for Older Adults with Dementia, 16th ICN&29th EAFONS, (Kent Ridge, Singapore).
- 9) 後藤直樹, 古川智恵：在留外国人糖尿病患者に外来診療でかかわる看護師の実践—文化的背景に焦点を当てて—，一般社団法人日本看護研究学会 第39回近畿・北陸地方会学術集会，和歌山県。

<助成金による研究活動>

- 1)古川智恵：ラオスにおける継続看護システムの構築とその評価。日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，課題番号 23K09897。2023-04-01 – 2026-03-31
- 2) 馬場好恵：悪性脳腫瘍による重篤な症状をきたした患者の家族に対する看護師の看護実践—人格障害や言語障害のある患者の家族への関わりを通して— 2025年度聖泉大学研究助成。

4. 地域貢献

- 1) 古川智恵：日本糖尿病看護・教育学会専任査読委員，日本がんチーム医療研究会世話人，南大阪皮膚排泄ケア研究会世話人，市立野洲病院看護研究指導，等
- 2) 馬場好恵：滋賀県看護協会 看護学会委員，聖泉大学キャリアアップ講座<看護研究>：「質的研究」講師，近江八幡市立総合医療センター看護研究指導，模擬授業：近江兄弟社高等学校，聖泉大学看護学部 広報委員会（オープンキャンパス）
- 3)後藤直樹：滋賀県学校協議会研修委員，滋賀県看護連盟湖東地区支部支部長，八幡高等学校連携講座「外科的手洗い」講師，オープンキャンパス成人看護領域看護体験講義担当，ナイチンゲール看護研究会(広報担当)

## 1-3 老年看護学領域

### 1. 構成メンバー

古川智恵教授、安田千寿准教授、木村美智子准教授（10月より准教授）

### 2. 教育活動

#### 1) 2年次前期：老年看護論（1単位）

高齢者を取り巻く社会状況や制度を中心にデータを用いながら概説し、現状から超高齢社会の課題を学生が関連付けながら考える内容とした。

#### 2) 2年次後期：老年看護援助論Ⅰ（2単位）

高齢者の心身の特徴と日常生活の影響を概説した。教科書をもとに毎回のプリントを作成し、授業終了ごとに提出を求めることで知識の定着を図った。また高齢者が障害を持ちながら生活していくための退院支援や施設での生活支援について、実習指導者を招聘し看護の実際を伝えていただきケアの具体的なイメージにつなげた。

#### 3) 3年次前期：老年看護援助論Ⅱ（2単位）

高齢者の特徴を踏まえた看護を中心に看護過程の展開の学習を行った。また、グループワークを通して情報収集やアセスメントに必要な知識を深め、高齢者の疑似体験や看護技術の演習、地域で取り組んでいる高齢者への福祉サービス調査と課題、アクティビティケアの計画と実践・評価を行った。グループワークが中心であり、メンバー間での取り組み方の差はあったが、非常勤助手1名が加わり昨年より対応することができた。

#### 4) 3～4年次：老年看護学実習Ⅱ（3単位）

3週間のうち2週間は豊郷病院、ヴォーリズ記念病院、友仁山崎病院のいずれかの病院で実習を行った。実習非常勤助手1名が加わり、学生個々に看護展開の指導を行った。

今年度は高齢者を5つの側面から情報収集し相互の関連性を理解する取り組みをした。5つの側面から退院支援や高齢者独特の回復における概念に着目するよう記録等を改訂し、例示しながら指導を行った。最後の1週間は特別養護老人ホームで実習を行い、生活を営む場での看護について学修した。さらに、特別養護老人ホーム実習最終日はアクティビティケアを実施し、高齢者の潜在能力の発見に繋がった。実習最終日には高齢者看護に重要だと思われたキーワードを学生が選択し、実習経験を通して学んだことをチームで討議する時間を確保した。高齢者看護の学びを各チームで資料にまとめ、目標達成を意識した成果物が完成し、学びの振り返りができた。

#### 5) 4年次：地域統合実習（2単位）

学生4名の興味関心に合わせた実習計画を立て友仁山崎病院、ヴォーリズ記念病院で実施した。学生それぞれの課題に向き合い、看護師となる自分の成長をも意識することができた。

#### 6) 4年次：卒業研究（4単位）

ゼミ生5名に対し高齢者における看護研究において個別対応で指導を行った。高齢者の社会背景や課題においては論文を通して最新のデータと向き合い自らのテーマに関連付けていった。5名とも研究計画書を書き上げることができた。

#### 7) 4年次：国家試験対策

試験本番までのスケジュールを組み、計画的に問題を解くこととした。小テストを定期的に行い、必修と一般・状況設定問題に点数を記入して成果や弱点を把握した。国家試験対策委員会の指導が中心となった。

### 3. 研究活動

- 1) 石井薫, 木村美智子, 島村美砂子. (2025): 認知症治療病棟の看護師がアルツハイマー型認知症患者の攻撃的行動の予兆を読み取る臨床判断プロセス, 日本精神保健看護学会誌 34 巻 1 号 39~48.

### 4. 地域貢献

- 1) 古川智恵: 成人領域に掲載

- 2) 木村美智子

・八幡高等学校連携講座 9/29 (ライフステージごとの対象者の理解について～高齢者の

## 年次報告（2025年度）領域

理解～

- ・八幡高等学校連携講座 12/11（バイタルサイン担当）

## 1-4 母性看護学領域

### 1. 構成メンバー

平田美紀教授（10月～）、富岡美佳教授（4月～8月）、金森京子特任准教授（10月～3月）、花原恭子講師、高木由美助教（4月～9月）

### 2. 教育活動

- 1) **2年：母性看護論**（15時間1単位 担当：富岡）では、母性看護学の基盤となる概念を踏まえ、母子とその家族を取り巻く社会状況や法制度、母子保健施策について講義を行った。さらに、性と生殖のメカニズム、リプロダクティブヘルス/ライツ、女性のライフサイクル各期における健康課題と看護の役割について体系的に教授した。事前・事後課題を通して主体的学修を促し、母性看護援助論および実習につながる基礎的理解の形成を図った。
- 2) **2年：母性看護援助論Ⅰ**（30時間2単位 担当：金森・花原）では、学生68名に、周産期における妊娠・分娩・産褥および新生児を対象に、身体的・心理的・社会的特性と看護援助について講義を行った。妊娠経過や分娩機序、産褥および新生児の正常経過と正常からの逸脱について体系的に教授し、各期の対象特性を踏まえた看護の理解を促した。事前・事後課題や振り返りを通して、母性看護援助論Ⅱおよび母性看護学実習につながる基盤的能力の育成を図った。
- 3) **3年：母性看護技術論Ⅱ**（60時間2単位 担当：花原・富岡・高木）では、母性看護論および母性看護援助論Ⅰで得た知識を基盤に、周産期の母子および家族を対象とした看護過程の展開と看護技術の習得を目的に講義・演習を行った。初産婦および新生児の事例を用いたアセスメント演習や、妊娠期から産褥期・新生児期に至る看護技術・保健指導を通して、ウェルネス志向に基づく実践力の育成を図り、母性看護学実習につながる応用的学修を行った。
- 4) **3年：母性看護学実習**（90時間2単位 担当：金森・花原）は、学生75名に、5施設で病院実習を実施できた。周産期にある妊産褥婦および新生児、その家族を受け持ち、看護過程の展開をコアとして病院実習を行った。対象女性の生理的・心理的・社会的変化や母親役割獲得、家族形成過程をアセスメントし、個別性を踏まえた看護を実践した。あわせて新生児の胎外生活への適応過程を捉え、適応を促進する看護援助について学修した。生命の誕生に向き合う体験を通して、母性看護の専門性と生命の尊厳について考察を深めた。
- 5) **4年：地域統合実習**（90時間2単位）では、総合周産期母子医療センター、産科クリニック、母子の広場等の実習施設において、ハイリスク母子や産後ケア、育児期にある母子への継続的支援について、各自が設定したテーマに基づき学修を行った。学生は主体的に課題を探究し、母性看護学の高い専門性と地域における継続ケアの重要性を理解した。4年次の卒業研究を見据えた実践的学修の機会となった。今後は、学修効果を高めるため実習期間の拡充について検討が必要である。
- 6) **4年：卒業研究**（4単位 担当：花原・富岡・高木）では、母性看護学領域に関連したテーマを設定した6名のゼミ生に対し、研究計画立案からデータ収集・分析、論文作成および発表に至るまでの一連の研究指導を行った。学生は各自の関心に基づくオリジナルテーマに主体的に取り組み、母性看護学の専門性を踏まえた研究成果をまとめ、発表を行った。
- 7) **4年助産師学校受験対策**：助産課程進学希望者3名に進学受験指導や面接指導等を行い、2名は別科助産に進学することとなった。

### 3. 研究活動

#### <論文>

- 1) 花原恭子, 平田美紀, 村井博子: A大学での母性看護学領域と小児看護学領域の協働による教育実践(第2報)―看護学生の子育て支援に関するレポート分析―, 聖泉看護学研究, 15, 31-37, 2025年3月
- 2) 花原恭子: 妊娠期の自動車運転とシートベルト着用―母子の安全を守るための実践的指導ポイント―, JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION, 35, 4, 2026年3月

#### <学会発表>

- 1) 花原恭子, 北村八重子, 余語政美, 桂和砂, 中村マリ, 中井恭子, 淵元純子, 岡本美佐江: 中高生向けリーフレット「しがプレコンノート」作成の取り組みと県内健康教育への活用, 第56回滋賀県公衆衛生学会, 2026年1月15日.

- 2) 余語政美, 花原恭子, 中村マリ, 北村八重子, 桂和砂, 岡本美佐江, 中井恭子: 令和6年度滋賀県プレコンセプションケア講師派遣事業実施状況の報告～県内における健康教育の展開から見えた課題と方向性～, 第56回滋賀県公衆衛生学会, 2026年1月15日.
- 3) 花原恭子: 滋賀県内の外国人妊婦の自動車乗車状況とシートベルト着用の実態調査, 第35回滋賀県母性衛生学会学術集会, 2026年2月23日.

#### <助成金による研究活動>

- 1) 花原恭子: 国籍に関係なく視覚的に理解できる妊婦向けシートベルト着用指導プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究(課題番号 25K20523). 2025 - 2027.

#### <その他>

- 1) 金森京子: 立命館大学衣笠研総合究機構人間科学研究所 客員研究員
- 2) 金森京子: 2026、寄稿執筆「労働者協同組合共同助産所お産子の家の開設経緯と今後の課題」『協同の発見』協同総合研究所、(掲載予定)
- 3) 金森京子: 2026、寄稿執筆「共同助産所お産子の家」『あゆみ』滋賀県助産師会、発刊90号

#### 4. 地域貢献

- 1) 平田美紀: 小児看護学領域に掲載
- 2) 金森京子: 10月以降について掲載

##### ■本学

・2025年度 私立高等学校と聖泉大学の連携講座、大学紹介：看護師・保健師・助産師の仕事、2026年3月24日、聖泉大学教室（彦根市）

##### ■滋賀県健康福祉部医療政策課

・滋賀県主催、滋賀県助産師キャリアアップ応援事業運営懇話会構成員  
・助産師キャリアアップ応援事業、新卒者集合研修講師（参加者28名）、2025年11月8日、医療研修施設ニプロ iMEP（草津市）

##### ■一般社団法人滋賀県助産師会／第4地区理事、第4地区支部長

・日本助産師会近畿地区研修会実行委員会 実行委員長  
・会則検討委員会 委員

##### ■労働者協同組合（法人）共同助産所お産子の家

・理事、事務局長  
・共同助産所お産子の家主催『お産塾Ⅰ』2026年1月17日、共同助産所お産子の家（東近江市）  
・近江八幡市主催両親学級、2025年度パパママ教室講師 妊娠初期から中期、2025年10月25日、近江八幡市立こどもセンター（近江八幡市）

##### ■うみのこ助産院

・院長  
・市民会議、産後ケア事業に関する現状と彦根市の取り組みの方向性、2026年2月18日、彦根市くすのきセンター（彦根市）

##### ■Birth for the Future@しが（BFF@しが）

・BFF主催講演、ちょこっとMeわたしのお産の日 日本のお産・世界のお産、2025年11月12日、彦根市立みずほ文化センター（彦根市）

- 3) 花原恭子

##### ■一般社団法人滋賀県助産師会／第1地区理事、第1地区支部長

・プレコンセプションケア検討委員会  
・100周年記念誌・式典委員会

##### ■滋賀県母性衛生学会 査読委員

■近江兄弟社高校 学部学科セミナー：新生児のふしぎ 2025年6月23日

■八幡高校 高大連携講師：沐浴について 2025年4月23日  
助産師について 2025年8月26日

##### ■茶道部顧問

#### 5. 受賞

花原恭子: 令和7年度滋賀県公衆衛生事業功労者公益財団法人滋賀県健康づくり財団 理事長表彰受賞

## 1-5 小児看護学領域

### 1. 構成メンバー

平田美紀教授、村井博子准教授、棚池諒平助手

### 2. 教育活動

#### 1) 2年次前期：小児看護論（15時間 1単位）

子どもとはどのような存在なのか、子どもの権利や家族機能、子どもを取り巻く法律や施策について講義を行った。少子化が進んだ背景や、小児看護の変遷について講義を行い、小児看護の役割の考察につなげた。4コマが終了した時点で小テストを行い、定期試験に向け知識の確認を行った。

#### 2) 2年次後期：小児看護援助論Ⅰ（30時間 2単位）

小児看護における子どもの成長・発達の理解は重要であり、乳児期、幼児期前・後、学童期、思春期の各段階別に形態的機能や機能的発達の特徴、発達理論などを一覧表にまとめ理解につなげた。作成した一覧表は、領域実習において受け持ち患児の発達を捉えるために使用する。また、「健康な子どもの遊び（4コマ）」で発達段階にあわせたおもちゃを個別に作製し、遊びが多岐にわたり子どもの発達を促進させる支援であることを講義した。

#### 3) 3年次前期：小児看護援助論Ⅱ（60時間 3単位）

小児の看護過程では、子どもとその家族を捉えるために事例を用いて成長・発達段階を考慮した看護展開を行った。看護展開では主に講義と個人ワークとし、看護上の問題抽出と計画立案を行った。さらに、事例に関連させた看護計画より具体的な支援方法を考えプレパレーションツールなどを作成（個人課題）する演習を行った。技術演習では、『小児呼吸音聴診シミュレーター小児ラング』を購入し、小児の解剖を理解しながら、よりリアルな聴診方法の指導を行った。また、小児特有のバイタルサイン測定やモデル腕を用いた点滴固定なども組み込み子ども特有の技術について指導した。

#### 4) 3年次（後期）～4年次（前期）：小児看護学実習（90時間 4単位）

健康な子どもの成長・発達と地域で暮らす障害をもつ子どもを理解するために2か所の保育園と特別支援学校にて、各2日間ずつ実習を行った。入院している子どもと家族への看護を理解するために長浜赤十字病院（2G）、彦根市立病院（5G）、近江八幡市立総合医療センター（5G）、滋賀県立小児保健医療センター（1G）の4か所で実習を行った。

#### 5) 4年次：地域統合実習（2単位）

ゼミ生10名が個別で興味・関心にあわせた実習目的を考え地域統合実習計画書を作成した。学生の目的に沿うように施設を調整し、野洲養護学校、近江八幡市立総合医療センター、滋賀県立総合病院こども棟、つくし保育園で実習を行った。各施設の子どもに応じた援助や指導が実施できるように事前にプレパレーションツールや基本的な生活習慣獲得に向けた絵本・紙芝居を作成して臨んだ。

#### 6) 4年次：卒業研究（4単位）

10名のゼミ生が関心のある出来事や疑問に感じたことなどから研究目的を定め個別で研究計画書を作成した。研究の問いを見出すために文献クリティークを行い、小グループおよび個別にて指導・助言を行った。研究計画書に基づき、研究依頼書や同意書などの必要書類を作成し全員が研究計画書の提出ができた。9月には、学内卒業研究報告会で発表した。

#### 7) 4年次：国家試験対策

ゼミで勉強会を行い、学習方法の指導や過去問を解き知識の定着につなげた。また模擬試験の結果から個別で面談を行い心理面のサポートを行った。

### 3. 研究活動

#### <論文>

- 1) 花原恭子, 平田美紀, 村井博子. (2026) : A 大学での母性看護学領域と小児看護学領域の協働による教育実践 (第2報) —看護学生の子育て支援に関するレポート分析—, 聖泉看護学研究, 53-59.
- 2) 棚池諒平, 平田美紀. (2026) : NICU 看護師の父親への働きかけに関する文献検討, 聖泉看護学研究, 39-50.

#### <助成金による研究活動>

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024~2027年  
平田美紀 : ICT を活用した多職種協働プレパレーション研修プログラム開発 (科研課題番号 : 24K13993)
- 2) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024~2027年  
村井博子 (研究分担者) : ICT を活用した多職種協働プレパレーション研修プログラム開発 (代表者 : 平田美紀 科研課題番号 : 24K13993)
- 3) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023年~2026年  
村井博子 : 発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム (FCPS) の開発 (科研課題番号 : 23K10122)
- 4) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023年~2026年  
平田美紀 (研究分担者) : 発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム (FCPS) の開発 (代表者 : 村井博子 科研課題番号 : 23K10122)
- 5) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023年~2026年  
平田美紀, 村井博子 (研究分担者) : 予防接種を受ける子どもの「親のためのプレパレーションガイド」の開発 (代表者 : 流郷千幸 科研課題番号 : 23K10065)
- 6) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2021年~2024年  
平田美紀, 村井博子 (研究分担者) : 食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構築 (代表者 : 鈴木美佐 科研課題番号 : 21K10927)

### 4. 地域貢献

- 1) 平田美紀
  - ・日本小児看護学会誌編集委員会査読員
  - ・彦根市子ども・若者支援地域協議会代表者
  - ・びわ湖東北部地域連携協議会 WG-C 未来にはばたく医療従事者の人材育成
  - ・近江高校模擬授業
- 2) 村井博子
  - ・わた SHIGA 輝く障スポ 2025 選手団サポーター (10/25~10/27)
  - ・長浜北星高校模擬授業
  - ・八幡商業高校模擬授業
- 3) 棚池諒平
  - ・わた SHIGA 輝く障スポ 2025 選手団サポーター (10/25)
  - ・びわ湖東北部地域連携協議会 WG-C 未来にはばたく医療従事者の人材育成

## 1-6 精神看護学領域

### 1. 構成メンバー

石井薫講師，佐伯興平助教

### 2. 教育活動

2年：精神看護論は，外部講師が担当した（木村）．グループワークを取入れながら講義を行ったが，学生の受講態度不良が目立った．

精神看護援助論Ⅰはオムニバスで担当した（石井，佐伯）．精神障害を抱えて生きることの意味，精神科における行動制限やリスクマネジメントにおける現状と課題，ストレングスに着目した講義を行い，精神障害を持つ当事者と当事者を支える家族や他職種による講義の場を設定することで，精神障がい者を地域で支えるサポート・サービスの重要性の理解を促した．

3年：精神看護援助論Ⅱはオムニバスで担当した（石井，佐伯）．オレムアンダーウッドのセルフケア不足看護理論を中心に講義を行い，ストレングスモデルを使って患者を理解するための講義と演習を取り入れた．

精神看護学実習は，水口病院 2 病棟（亜急性期病棟・回復期病棟），豊郷病院 2 病棟（慢性期病棟・急性期病棟）で実習を行なった．2025 年 11 月 25 日以降の 3 クール目，水口病院での実習では，ロッカーキーの取り扱い理解の不十分から鍵をロッカーに差したまま帰宅した学生が 4 名あった．施設ごとに方法が異なるため，自己判断せず必ず確認するよう指導した．また，同クールでは未記入の実習記録用紙を散らかった部屋で紛失したことに，実習先に来るまで気づかず，最終的に記録を発見できなかった学生が 1 名あった．記録用紙の管理を徹底する意味を再度指導した．さらに 12 月 8 日からの 4 クール目の実習でも，ホテルのチェックアウトの時刻が迫っていたことに焦り，ロッカーに鍵を差したまま帰宅した学生が 1 名あった．当該学生は，鍵を受け取った際の謝罪も不十分であった．鍵の取り扱いについて再度確認すると共に，焦りの感情が確認を疎かにするリスクを高めること，謝罪する際の態度について指導した．また，1 月 13 日からの 5 クール目，豊郷病院での実習では，バイタルサイン測定時，患者のベッドサイドに体温計を置き忘れてその場を離れるインシデントがあった．厳重な物品管理が必要な意味を再度確認し，些細な置き忘れが重大な事故につながるリスクについて指導した．

精神障がい者通所施設就労継続支援 B 型作業所モコハウス・友愛ハウス（障害者支援センターそら）での実習を行い，就労支援，相談支援の理解を深めることができた．実習最終日の午前中，学内にて各自の受け持ち患者への看護展開からの学びに加え，グループ毎に実習病棟の特性・入院患者の入院形態の内訳等を共有し，閉鎖病棟と開放病棟のハード面とソフト面の理解を深め，共通点および相違点の認識を深める指導を取り入れた．

実習中のカンファレンスは指導者同席の下，毎日 30 分程度行った．患者へのポジティブなフィードバックが患者の自己肯定感を高めた経験，させられ体験に苦しむ患者の不安に寄り添う経験などから，学生は精神看護の難しさとやりがいを感じていた．しかし，知識不足が目立ち，

患者の状態と知識を関連付けることができない学生が多かった。授業の中で、精神症状が実際の患者にどのように表れるのか関連づける必要がある。

4年：リエゾン看護論は、成人看護領域の教員2名とともにオムニバスで担当した（石井，佐伯）。実習と授業日の重なる学生が複数いたため、オンデマンドを組み合わせての授業となった。最終日は、外科病棟入院中の手術を控えた摂食障害を有する患者の事例を基にグループワークを行い、リエゾン精神看護の視点の実践での活かし方について学びを深めた。

地域統合実習は、水口病院SD病棟2名，長浜赤十字病院訪問看護2名，障害者支援センターそら1名，で実習を行った。学生が学びたい内容を教員が確認し，実習計画書作成と実習計画のプレゼンテーション内容を学内で指導した後，昨年同様，学生自身が看護部長にアポイントメントを取り，病院で実習計画内容を発表し，病院側と実習内容を調整する機会を持たせた。実習前から主体的に実習計画を行うことで，実習への取り組み姿勢に良い効果が得られた。患者の「その人らしさ」に着目した看護の実際，入院の長期化を防ぐための取り組み，訪問相談支援員の介入から地域在住の精神障害者への看護の役割を考えるなど各学生の目的に沿った学びの機会を得ることができた。

卒業研究は，それぞれの研究テーマに沿った研究指導を行い，統合失調症のある親と暮らす息子の求める支援，医療系大学生のSNS依存が親やきょうだいとの関係性に及ぼす影響，長期入院の経験をもつ統合失調症患者と関わる子ども時代をきょうだい児として過ごしたきょうだいの思い，自閉スペクトラム症の疑いがある未就学児をもつ親の修学前診断に対する思い，精神疾患患者に対する看護学生の心理的距離の調整方法などを主体的に学習することができた。

### 3. 研究活動

#### <論文>

佐伯興平：看護師のキャリア段階における困難体験と自己成長に関する文献検討，聖泉看護学研究，Vol.15，61-70，2026.

#### <助成金による研究活動>

1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究（C）2024～2026年

石井薫（研究代表者）：認知症者の攻撃的行動予兆サインを読み取る能力育成プロトコルの作成（科研課題番号：24K13816）

### 4. 地域貢献活動

1) 石井薫

- ・滋賀県看護学校協議会令和7年度研究会

2) 佐伯興平

- ・滋賀県看護協会 第六地区支部（協力委員）

## 1-7 公衆衛生看護学領域

### 1. 構成メンバー

植村小夜子

### 2. 教育活動：

<看護学部>

1年生：「公衆衛生看護論（必修科目1単位，8回）」

「ヘルスプロモーション活動論（必修科目1単位，8回）」

公衆衛生看護の理念や活動の歴史，対象や看護の場や方法について教員の事例も用いながら，学生が公衆衛生看護に対する具体的なイメージを持てるように講義を行った。また「ヘルスプロモーション活動論」では，個人・家族・集団の健康に関する現状や課題に基づき，保健師活動の基本的な考えである生活の支援，予防の視点で行う健康教育について諸理論を用いて説明を行った。

2年生：「公衆衛生看護活動論（必修科目2単位，15回）」

公衆衛生看護の理念や活動の歴史，看護の対象に対する活動の展開について講義を行った。母子（親子），成人，高齢者のライフステージに沿った活動や，産業や学校での保健活動，感染症，難病，障がい者対策等，人生全体にかかわる課題を解決する支援について保健師活動を中心に具体的な事例を提示しながら講義を行った。

3年生：「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ（新カリキュラム，保健師教育課程必修科目2単位，15回）」

保健師が地域住民に行う健康支援について，母子の新生児訪問事例を用いた家庭訪問援助計画作成と彦根市民を対象とした健康教育の企画・実施の演習を行った。個人で取り組む家庭訪問援助計画作成は，教員が授業毎に学生の取り組み内容に助言を行うことで学習目標を達成できた。グループで取り組む健康教育の演習では，彦根市の健康関連データ（高齢者保健福祉計画，健康づくり推進計画，データヘルス計画など）から地域の課題を見出せるように工夫し健康教育の企画書，及び指導案を作成させた。

4年生：「公衆衛生看護学実習」

「保健師国家試験対策」

保健師教育課程の29名は県内保健所（甲賀、東近江、彦根），市町保健センター（湖南市，水口町，日野町，近江八幡市，多賀町），地域包括支援センターで「公衆衛生看護学実習」を行った。

家庭訪問では初回訪問が保健師の同行，継続訪問は保健師の同行または学生のみで実施した。学生の各訪問事例については家庭訪問報告会を行い，学生が個別事例から地域課題へのつながりを意識させた。学生は実習前後の発表会の準備から実施に向けた地域診断の取り組みによって地域特性を理解した。また，同じ時期に別の実習地で実習を行うグループが相互に学びを深められるように，報告会を実施した。実習での健康教育や地域診断というグループでの取り組みは，学生自身が自分の役割を果たし，建設的に話し合い，グループダイナミクスを学ぶ機会となった。

「保健師国家試験対策」では，試験出題基準を中心に専任教員による小テストと解説で知識定着，模擬試験3回で苦手分野の抽出とその対策を考える機会をもった。例年と比較すると知

識定着，苦手克服が十分ではない学生の割合が多く，過去模試や予想問題などを活用しながら学生への対応を行った。

## 1-8 地域・在宅看護学領域

### 1. 構成メンバー

磯邊厚子，村上美潮助手

### 2. 教育活動

#### 1) 2年次（前期）：地域・在宅看護論

全8回の内容は、地域在宅看護論を学ぶ必要性、取り巻く社会、社会制度を中心に講義した。各項の終了後に manaba を利用し、小テストを実施し、その解説を加えた。また地域包括ケアシステムの理解に注力する内容とした。授業教材は現場実践が理解しやすく、さらに感性が育つよう、相応しい医療モデルビデオ等を取り入れた。

#### 2) 2年次（後期）：地域・在宅看護援助論Ⅰ

毎授業終了後、復習問題を提示し、授業の振り返りと学習確認を行った。また事例を用いて対象へのアプローチを探索する演習を行い、授業内でフィードバックした。外部講師として「精神障害者への訪問看護実践」「小児在宅ケア」「在宅医療」の実践者を招き多くの体験を用いて講義を受ける機会を提供した。学びをレポートし、manaba に提出とした。その中で自己の課題への気づきと同時に、知識の蓄積、拡大を促した。また、適宜、視覚的教材を取り入れ在宅療養者のイメージができるように教授した。

#### 3) 3年次（後期）：地域・在宅看護技術論Ⅱ

看護過程においては、個人ワークで行った事例をグループワークでさらに深めるように授業設計を行った。個人ワークに対しては、適宜解説を加え、次の段階へ進めるよう指導し、在宅看護過程の特徴の理解が深まるようにした。また演習では、訪問看護ステーションでのマナー、経管栄養（胃瘻管理・注入）、排便ケア（摘便・おむつ力学）吸引法の演習を行い、在宅看護の特性と役割の認識向上を高めた。さらに、地域包括支援センターの役割や認知症療養者の地域の取り組みを実務家教員から教授した。

#### 4) 3年次（後期）：地域・在宅看護学実習

学内実習3日間（オリエンテーション、振り返り、まとめ）、地域包括支援センター実習2日間、訪問看護ステーション実習5日間の実習構成で行った。訪問看護実習においては、多くの同行訪問を通して、在宅で暮らす療養者の生活、訪問看護師の役割について学ぶことができた。地域包括実習では介護保険制度のもと実践されている地域の高齢者支援についてその実際を知ることができ、地域で暮らす高齢者と家族のニーズについて考えることができた。

#### 5) 4年次（通年）：ゼミ

卒業研究は、学生の関心のあるテーマを尊重し、内容を深め、計画書作成まで全員が到達した。地域統合実習は「看護小規模多機能型施設」と「訪問看護ステーション」で実施した。地域で療養者を支える仕組みと高齢者や小児、慢性疾患を持つ療養者支援について地域での看護活動を学んだ。また、訪問看護ステーションでは、学生の関心のある医療的ケアの実施、緩和ケア、ストーマ造設後の療養者を訪問させていただき、個別性のある支援方法について深めることができた。国試対策は学生の個別性に応じ、過去問題の提示、学習会の開催、指導を行った。

3. 研究活動

特記事項なし

## 2. 委員会活動報告

## 2-1 教務委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：古川智恵
- 2) 委員：村井博子、石井薫、川端綾野、木村美智子、岩渕亜貴子、山川直美

### 2. 所掌事項（看護学部教務委員会規程）

- 1) 試験に関する業務
  - (1) 定期試験日程調整
  - (2) オリエンテーション
  - (3) 定期および再試験の依頼
  - (4) 試験結果一覧作成
  - (5) 成績通知
  - (6) 進級判定資料作成
  - (7) 試験監督の調整
- 2) 学年暦の作成

### 3. 委員会活動

回数	年 月 日（曜日）	主な議題、内容等（毎回：各ワーキング報告）
1	2025年4月2日（水）	1. 2025年度科目、授業の運営について 2. フレッシュゼミについて 3. 教務ガイダンス、履修登録 など
2	2025年5月7日（水）	1. 第1ターム試験について 2. 第2ターム試験について 3. ファイナル試験について など
3	2025年6月13日（金）	1. 第1ターム試験について 2. 第2ターム試験について 3. 2025年前期公開授業について など
4	2025年7月16日（水）	1. 第2ターム試験について 2. 後期時間割について 3. シラバス修正およびシラバスチェックについて など
5	2025年7月16日（水）教授会終了後	1. 第2ターム成績判定について
6	2025年9月3日（水）	1. 第2ターム試験について 2. 後期時間割について 3. シラバス修正およびシラバスチェックについて など
7	2025年10月2日（木）	1. 入学前課題について 2. 履修状況 3. 第3ターム試験について など
8	2025年11月13日（木）	1. 入学前課題について 2. 履修状況 3. 第3ターム試験について など
9	2025年12月10日（水）	1. 入学前課題について 2. 履修状況 3. 後期定期試験時間割（案）について
10	2026年1月20日（火）	1. 入学前課題について 2. 入学前登校について 3. 4年生の成績について など
11	2026年2月16日（月）	1. 入学前課題について 2. 入学前登校について 3. 1、2、4年生の成績について など
12	2026年3月9日（月）	1. 入学前登校について 2. 2年生の成績について など

#### 4. 委員会総括

昨年度から導入された ICT を活用した授業について、教員や学生の準備も整いつつあったが、学生からは資料を印刷してほしいなどの意見が続いていた。PC やタブレットを購入している学生にとっては、ICT は便利だが、試験や実習の準備では、ICT はまだまだ課題が残ることが明らかになった。

- 1) フレッシュゼミについては、教務委員会が主体となり、1年生の担任と合同で行うこととなった。そのため、1年生の習熟状況が理解できた。また、「レポートの書き方」「ノートを取り方」などの授業を取り入れることで、ICT を活用した授業につながる運営ができた。
- 2) キャリア教育について、欠席などにより単位習得ができなかった3年生は、後期に実習期間に入ることから、特別な配慮が必要であった。キャリア教育は、必修科目であるが、3年後期の領域別実習の先行要件を満たさないことから、今後、対策が必要である。
- 3) 学生の学修に対する取り組みとして、遅刻の多さが目立ったため、規定を見直し、後期から「遅刻または早退3回につき1回の欠席とする」を取り決めた。その結果、遅刻または早退する学生が激減した。
- 4) 再試験を欠席する学生がいた。そのため、単位習得ができず、進級できないこととなった。教職員の理解が一致しておらず、学生への対応について課題が残った。今後は、教務委員会が履修要項を理解したうえで、速やかに保護者を含めて対応する必要がある。
- 5) シラバスについて、昨年は、教務委員会でシラバスチェックをした後に科目責任者が、その内容を自由に変更していたということがあった。今年度は、教務委員会のチェック後のシラバスの大幅な変更は見られなかった。
- 6) 新カリキュラムの領域別実習について、実習調整委員会と調整し、令和8年度から3月初旬に領域別実習を終えるように調整した。

#### 5. 次年度の課題

- 1) ICT を活用した授業のあり方について、学生の習熟にあっていないため、必修科目で実習につながる科目については、科目責任者の判断で印刷物を配布することも可とする。
- 2) 学習支援が必要な欠席が目立つ学生、GPA が低い学生について、学修支援を教務委員会を中心となって面接や学習支援を行うなど取り組みを強化する。
- 3) 履修要項に記載されている文言を見直し、教員と学生が共通理解できるように検討していく。

以上、委員会活動の1年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

## 2-2 学生委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：村井 博子
- 2) 委員：平野明美，高島留美，後藤直樹，佐伯興平，棚池諒平，富岡美佳（8月末）

### 2. 所掌事項

- 1) 学生委員会の開催
- 2) 学年担任と学生指導
- 3) 長期休暇前の生活指導
- 4) 学生課との連携協力
  - ①学生表彰 ②就職支援 ③学友会 ④新入生オリエンテーション
  - ⑤奨学金 ⑥クラブ ⑦学生の生活・学習環境 ⑧学生便覧
- 5) 万聖祭への参加協力
- 6) 卒業パーティーへの協力
- 7) 全学学生委員会との連携協力
- 8) 教育後援会への出席(委員長)
- 9) わた SHIGA 輝く障スポへの学生参加（2025年度）

### 3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題, 内容等
毎回		全学学生委員会報告 担任報告(気になる学生, 学習支援状況)
1	2025年4月10日(金)	1. 学生委員会組織図 2. 担任業務の確認 3. 学生オリエンテーション
2	2025年5月7日(水)	1. 委員会業務分担 2. わた SHIGA 輝く障スポについて 3. 地域枠について
3	2025年6月10日(火)	1. わた SHIGA 輝く障スポについて 2. 緊急時連絡ルートについて (案) 3. 地域枠について 4. 前期試験終了後の学年ガイダンスについて
4	2025年7月9日(水)	1. わた SHIGA 輝く障スポについて 2. 緊急時連絡ルートについて
5	2025年9月12日(金)	1. 全国交通安全運動教員配置 2. わた SHIGA 輝く障スポについて
6	2025年10月6日(月)	1. わた SHIGA 輝く障スポについて 2. 地域枠 研修報告 3. 万聖祭に向けた学年企画, 教員企画
7	2025年11月5日(水)	1. わた SHIGA 輝く障スポについて (振り返り) 2. 万聖祭に向けた学年企画, 教員企画

8	2025年12月8日(月)	1. 万聖祭の振り返り 2. 2026年度予算(案)
9	2026年1月13日(火)	1. 地域枠について 2. 後期試験後の学年ガイダンスについて
10	2026年2月5日(木)	1. 地域枠について
11	2026年3月10日(火)	1. 2026年度1年生学外オリエンテーリングなど 2. 2025年度の総括 4. 4月の学年オリエンテーションについて

#### 4. 委員会総括

今年度より少人数の学生を指導するチューター制度は廃止とし、学年に担任長をおき担任が面談や指導を行うことにした。学年間で情報共有がなされ、担任長から学生委員長および学部長に報告し円滑に学生指導ができた。だが、入学前より精神面の不安定な学生が、課題内容や事後課題の提出遅れに対する相談（特に入学直後）を休日に担任にメールでしていたことが分かった。このことから、科目責任者または担任が対応すればよいのか判断が難しいことや、学生の質問内容によってはどのように連絡すればよいのか考え緊急時連絡ルートについて話しあった（連絡ルートについては学生委員会のフォルダに保管）。また、学内で体調不良になり家族への連絡が必要な時は、科目責任者より学生課に報告することにした。学生の生活面や困りごとなどに関する情報は、学年でエクセルシートを作成し共有を行い、さらに全教員間で共有が必要な情報（身体面や進退に関する面談内容も含めて）は、AAの修学ポートフォリオの指導記録に記載することになる。

今年度は滋賀県で行われた第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」選手団サポーターに、看護学部の1・2・4年生と人間学部の3・4年生が参加した。事前に参加手段の確認や滋賀県からのオリエンテーションがあり時間割調整を教務委員会とともに行った。障スポ開催期間中数名の欠席があったが、各都道府県の団につき無事にサポートを終えられた。また、参加した学生は学びや感想をレポートに記入しており、達成感があるとともに満足度の高いボランティア活動になった。

看護地域枠については、2年目の活動となり1・2年生で20名となった。今年度は、前期の試験終了後に湖北地域の杉野区を訪問し地区踏査や地域の方と交流を行い、後期は甲賀地区の医療体制を聞き紫香楽病院の見学に行った。また、三大学の交流会が県立大学であり学生は情報交換や学生生活について話しができ滋賀県の医療について関心が高まった。2026年度の交流会は聖泉大学が担当予定である。

今年度の学友会活動は、2年生を中心に新入生歓迎会、納涼祭、万聖祭、クリスマス会の企画、準備、当日運営を行った。2026年度も両学部での万聖祭開催予定であり、学友会内の学生同士の定期的な交流を行いながら学生主体で進めていくことが重要である。4年生の卒業パーティーは、学位記授与式終了後、ホテルニューオウミに移動し実施された。2年後は看護学部だけの単科になるため、大学としての行事にするのかどうするのか、卒業パーティーのあり方を協議する予定である。

以上、委員会活動の1年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

## 2-3 国家試験対策委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：古川智恵
- 2) 委員：平田美紀、棚池諒平、五十川響、村上美潮

### 2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策に関すること
- 2) 看護師国家試験に関すること
- 3) 保健師国家試験に関すること

### 3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等
1	2025年4月18日	1. 委員会規定について 2. 書記について 3. 第114回の国家試験の振り返り 4. 2025年度年間計画について 5. 国家試験対策委員会役割について 6. 国家試験対策ガイダンス、保護者への情報提供について 7. 既卒生（国家試験不合格者）の状況と対策について 8. 問題集、参考書販売について 9. 保健師対策について など
2	2025年4月19日	1. 保護者説明会開催・振り返り
3	2025年5月9日	1. 委員会規定について 2. 保護者会の振り返り 3. 2025年度年間計画について 4. 既卒生の状況と対策について 5. 問題集、参考書販売について など
4	2025年6月2日	1. 6月強化対策の状況把握 2. 低学年対策（夏季休暇の課題）について 3. 既卒生の状況確認（本学での受験希望等）
5	2025年7月2日	1. 夏季休暇課題の問題作成と提出および対応 2. 国試ガイダンスについて 3. 夏季休暇中の4年生のスケジュールと対策 4. 強化対策を経て振り返りとその後の支援
6	2025年8月6日	1. 卒論提出時期までの国試対策について 2. 既卒生の対応
7	2025年9月3日	1. 低学年模試自己採点結果 2. 第1回模試結果・返却・強化対策 3. 保健師対策
8	2025年10月6日	1. 東アカ 自己採点結果 2. 成績低迷者と講座出席状況、対策 3. 低学年夏季休暇課題の処理 4. 願書提出・確認

9	2025年11月4日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2回国試模試の結果・返却・強化対策</li> <li>2. 出願ガイダンス（11/5）にむけて</li> <li>3. 多賀大社の参拝、激励会について</li> <li>4. 次年度国試対策業者の選択について</li> </ol>
	2025年11月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師国家試験願書提出</li> <li>2. 保健師国家試験願書提出</li> </ol>
10	2025年12月2日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模試の結果・返却・強化対策</li> <li>2. 年末年始の学習支援</li> <li>3. 次年度予算案作成</li> </ol>
11	2026年1月6日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第3回国試模試の結果・返却・強化対策</li> <li>2. 多賀大社参拝について</li> <li>3. 受験票配布（1/29）国試自己採点（2/18）日の確認</li> </ol>
12	2026年1月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多賀大社参拝準備</li> <li>2. 合格祈念グッズの袋詰め</li> </ol>
13	2026年1月30日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多賀大社参拝</li> <li>2. 受験票配付、激励、合格祈念グッズ渡し</li> </ol>
14	2026年2月12日 2026年2月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第112回保健師国家試験</li> <li>2. 第115回看護師国家試験</li> </ol>
15	2026年2月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国試自己採点結果・状況確認</li> <li>2. 免許申請手続きガイダンス</li> </ol>
16	2026年3月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国試合格発表の確認と就職先への報告（学長・理事長へ）</li> </ol>

#### 4. 委員会総括

##### 1) 国家試験サポートについて

今年度から、教員による対策講座を開始した。過去問を配布するとともに、疾患ごとに対策講座を週に1回2コマのペースで実施した。学生の出席率が徐々に下がり、自己学習を希望する者がでてきた。教員によって教授内容に違いがあったためと考えられる。

学生の習熟度の確認は、学外模試を月に1回のペースで設定することで取り組みを行った。12月の模試では、全員が必修の得点が40点を超えることができていた。しかしながら、安定して40点台をキープするまでには至っていなかった。

4月に国家試験ガイダンスの保護者会を開催したが、今年度は、例年より全体のレベルが低く、よくできる学生とできない学生の2極化が目立った。主張の強い学生の意見に振り回されることがあり、教員と学習したい学生の意見を反映することが難しかった。保護者ポータルを活用し、国試対策の状況を伝え保護者とともにサポートができるなど、今後の課題である。

##### 2) 多賀大社の参拝について

今年度は大雪のため、希望者全員が参加することができなかった。学生の学習状況を考慮してもう少し早い時期に設定できれば、日程の再調整も可能であった。

## 2-4 実習調整委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安田千寿
- 2) 委員：川端愛野、後藤直樹、佐伯興平、高木由美（9月まで）

### 2. 所掌事項

- 1) 実習調整に関すること
- 2) 各領域共通の実習要項の作成・印刷依頼
- 3) 実習指導者会議の企画・運営
- 4) 実習配置表の作成
- 5) 実習の予算に関すること
- 6) 滋賀県看護学校協議会に関すること（滋賀県下の実習調整含む）

### 3. 委員会活動

回	年 月 日(曜日)	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	2025年4月8日(火)	・年間活動計画、定例委員会日程、議事録作成担当の決定 ・予算の確認 ・2025年度の実習ローテーション表の確認	5名
2	2024年5月13日(火)	・2025年度実習要項の印刷仕上がりと配布 ・2025年度実習指導者会議の準備 ・2025年度実習オリエンテーションの日程とメンバー表作成 ・2026年度実習ローテーション表の確認 ・2025年度地域統合実習の新規委託契約の確認 ・実習物品と予算	4名
3	2025年6月10日(火)	・実習施設管理者・指導者会議の資料・物品準備 ・2025年度の領域別実習メンバーの編集 ・2025年度実習予定を滋賀県看護学校協議会へ提出準備 ・地域統合実習の報告書の書式と評価表の配信	5名
4	2025年6月11日	・実習施設管理者・指導者会議の運営	4名
5	2025年7月15日(火)	・2025年度の領域別実習メンバー調整 ・実習オリエンテーションの企画役割分担 ・学期末ガイダンス内容の確認 ・2026年度実習ローテーション表の修正と学校協議会への報告	3名
6	2025年7月30日	・3年生学期末ガイダンス実施	1名
7	2025年8月～9月	・領域別実習の必要物品個数調査	
8	2025年9月16日(水)	・実習オリエンテーションの準備 ・インシデント・アクシデントレポート（新様式）の集計方法について ・2026年度学校協議会再調整結果の発信、取りまとめ	3名
9	2025年9月19日(金)	実習オリエンテーションの実施	3名
10	2025年10月14日(火)	・2025年度実習状況の確認 ・2026年度実習指導者会議の講演会テーマについて	3名

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度の実習要項作成について</li> <li>・2026年度実習ローテーション表の案作成</li> </ul>	
11	2025年11月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度実習状況の確認</li> <li>・2026年度共通要項の見直し</li> <li>・2026年度の実習計画確定(看護学校協議会の結果周知)</li> <li>・2027年度実習ローテーション表の案作成</li> </ul>	3名
12	2026年1月23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度実習状況の確認</li> <li>・2025年度実習インシデントレポート表の作成と公開</li> <li>・領域別実習用、物品不足分の購入</li> <li>・2026年度予算について</li> </ul>	4名
13	2026年2月6日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度実習状況の確認</li> <li>・2026年度実習グループ数の検討(減数案)</li> <li>・2026年度の実習要項作成依頼・確認</li> <li>・2026年度実習共通要項の最終案作成</li> <li>・2026年度の実習指導者会議の講演会の検討</li> </ul>	3名
14	2026年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度活動報告作成</li> <li>・年次報告書の作成と確認</li> </ul>	4名

#### 4. 委員会総括

実習調整委員会のメンバーは年度途中から4名へと減少したが、メンバーのない領域の確認にそれぞれのワーキング委員が対応し調整漏れのないように努め、年間業務を遂行することができた。また、滋賀県看護学校協議会の窓口となり調整においてもトラブルなく実施ができた。

今年度より学生が領域別実習で使用する物品を、実習ガイダンス時に一括配布することとなった。その準備として、各領域へ必要物品と個数の調査が新たに入った。物品にかかる費用はこれまで各領域で予算立てしていたものから実習調整委員会へとスライドする。次年度から予算に上乘せして要求する必要がある。その他、次年度の課題として、実習施設管理者・指導者会の講演会の詳細を検討すること、実習期間が短縮化することに伴う、学生の疲労や精神負担などの懸念事項があるため、引き続き領域を超えて実習状況の共有・確認が求められる。以上より、委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

## 2-5 学術誌編集委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：西山ゆかり
- 2) 委員：安田千寿

### 2. 所掌事項

- 1) 学術誌の編集と出版
- 2) その他、学術誌に関すること

### 3. 委員会活動

第 14 巻の発刊の準備を、以下に行った。会議は適宜開催をした。

回	年月日（曜日）	議題（テーマ）・内容	備考
1	5 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投稿規定・執筆要項について、教授会での承認後に HP 掲載の準備と掲載</li> <li>2. 年間計画について               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学術誌作成スケジュール</li> <li>2) 委員会開催日について</li> <li>3) テーマの締切日と申請方法について</li> </ol> </li> <li>3. 委員会メンバーの役割決定</li> <li>4. ジボジトリーの手続き（学生課：秋山さんへデータを持参）後に HP へのリンクを依頼（アドミッション室へ書類提出）</li> </ol>	
2	8 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 8 月 17 日（月）のテーマ申請〆切後に、投稿者への人数の確認（HP で投稿者データ確認）</li> <li>2. 今後の投稿に際しての日程と投稿に関する規定の変更と論文提出方法の説明をメールで案内</li> <li>3. テーマリストの作成</li> </ol>	
3	9 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 9 月 18 日投稿〆切後に、イニシャルチェックを行い、投稿者に修正依頼</li> <li>2. 各論文の ID と PW の付与</li> <li>3. 査読者の選出と依頼</li> <li>4. 依頼文作成（査読者宛）</li> <li>5. 9 月 25 日（月）査読者依頼と決定</li> </ol>	オンライン投稿を併用したため、会議の回数を見直した。
4	10 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投稿者からの原稿チェック</li> <li>2. 10 月 1 日、査読者へ第 1 回目の論文をメールで配信（PW 設定と解除説明書の配信）</li> </ol>	
5	11 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 11 月 4 日投稿者へ査読結果返却</li> <li>2. 11 月 27 日、修正原稿〆切後に原稿チェック</li> </ol>	
	12 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 12 月 1 日、査読者へ第 2 回目の論文をメールで配信</li> <li>2. 12 月 26 日に 2 回目査読結果を投稿者へ返却</li> </ol>	

		3. サンライズ出版に見積もりと校了スケジュールの確認	
6	1月	1. 1月13～19日、投稿者最終原稿の提出後、サンライズ出版へ随時印刷依頼	
	2月	1. 2月9日（月）ごろに、出版社へ第1回原稿の提出 2. 初校校正：投稿者へ原稿チェック依頼 3. 投稿原稿の掲載順番の検討 4. 巻頭言の依頼（学部長） 5. 第15回の表紙・目次・抜き刷りの表紙のチェック（委員会） 6. 印刷部数一覧、査読者への謝礼等の回議書作成 7. 郵送先のラベル作成	
4	3月	1. 3月5日ごろ、2回目構成変更のチェック（委員会）後に投稿者へ最終校正依頼 2. 編集後記原稿（委員長） 3. 3月10日ごろ、最終原稿の誤字脱字チェック（委員会）後に修正があれば投稿者に確認 3. 3月18日、出版社最終原稿の提出 4. 3月1日メールで抜き刷りの冊数確認・申込書を配信 5. 3月25～31日に納品 6. 査読者、投稿者、連携病院等への郵送準備と郵送 7. 査読者への謝礼とお礼 8. ジボジトリーの依頼（秋山さん） 9. 最終PDF原稿の保存（図書館） ⇒2026年6月頃予定（次年度委員会で掲載、リンクの確認をする。）	

#### 4. 委員会総括

今年度も、例年通り3月下旬の製本完成を目指して年間スケジュールに従って業務を遂行し、3月末日に発刊することができた。

投稿者は、主に本学教員と大学院生修了者であった。

本年度の投稿は8件で、内訳は、原著3件、研究ノート1件、資料3件、その他1件であった。原著は、それぞれ学外者7名に査読、研究ノートおよび資料は、学内の教員6名に査読を依頼した。その他は、委員会でのチェックを行った。査読の結果、最終的に、原著1件、研究ノート3件、資料3件、その他1件となった。

昨年度からインラインでの投稿とのやり取りを行っているため、情報漏洩対策としてID・PWの付与をテーマの申請の時点で行い、原稿送付までにPCソフトの確認と操作方法について、投稿者・査読者・委員会・出版社で確認して進めることでスムーズに作業ができた。委員会メンバーが今年度2名であったため、定期的会議を持たず随時打合せ会議を行った。

以上より、委員会活動の自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

## 2-6 広報委員会

### 1. 構成メンバー

委員長：小林菜穂子

委員：馬場好恵、花原恭子、中谷三佳、棚池諒平、村上美潮（休）、（澤村歩美、高木由美）  
吉田猛、宮川華、今宿團（敬称略）

### 2. 所署事項

- 1) 看護学部の広報活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること
- 2) オープンキャンパス、高校訪問等の計画、実施に関すること
- 3) ホームページの企画・記事記載に関すること
- 4) 高大連携事業の運営に関すること

### 3. 委員会活動

	日 時	主な協 議 事 項
第1回	2025年4月9日	1.広報委員会規定、学生広報委員会内規 2.ワーキング年間スケジュール（担当メンバー紹介含む） 3.4月の高大連携（八幡高校） 4.OC担当一覧表 5.ホームページ担当一覧（案）など
第2回	2025年5月7日	1.5月のオープンキャンパス 2.4月高大連携（八幡学校）アンケート結果 3.近江兄弟社：6/23 高大連携講座について など
第3回	2025年6月5日	1.オープンキャンパス関連 2.8月八幡高校との高大連携講座草案 3.今年度、高校訪問校（包括協定締結5校） など
第4回	2025年7月2日	1. オープンキャンパス関連（6月振り返り、7月企画） 2. 八幡高等学校との高大連携（8月）など
第5回	2025年8月19日	1 次年度パンフレット 2.オープンキャンパス関連（7月振り返り、9月企画） 3.8月八幡高校高大連携講座（最終確認） 4. HP, Facebook 掲載状況 など
第6回	2025年9月19日	1. オープンキャンパス関連 2.8月八幡高校高大連携講座振り返り など
第7回	2025年10月16日	1. 今後のOCについて 2. 9月の振り返り 3. 八幡高校（今後のスケジュールについて12月） 4. 大学パンフレット:学年別ページについて など
第8回	2025年11月6日	1. 大学パンフレット進捗 2. 近江高等学校との連携講座 3.八幡高校関連（セミナーハウス報告、中間評価会議報告、12月企画）など
第9回	2025年12月3日	1.オープンキャンパス関連（次年度看護体験、12月振り返り等） 2.3月末の連携私立高校連携講座 3.次年度予算 4.近江高校との連携講座 など

第10回	2026年1月8日	1.次年度 OC 看護体験テーマ 2.3月のオープンキャンパス 3. 大学パンフレット進捗 4.私立高校との連携講座案 など
第11回	2026年2月2日	1.大学パンフレットの進捗報告 2.令和7年度 OC 総括、次年度の OC について 3.3月 OC 看護体験 4. HP, Facebook 記事の進捗状況 4.3月24日私立高校との連携講座 など
第12回	2026年3月24日	1. 動画撮影進捗 2. 八幡高校との評価会議報告 3. 各ワーキングの活動報告など

#### 4. 委員会総括

##### 1) オープンキャンパスの運営について

(全) 入試・学生募集委員会での企画から、今年度も OC を学部広報委員会として、実施を行った。入試変更に伴う入試相談内容への教員周知や、担当表の対応など、入試委員会とも連携し運営した。今年度は、入学予定者は先日実施した一般 C での合格者が手続きをすれば、67名となった。生徒数の減少と国公立を選択し、2次手続きまで進んでも辞退者がある状況で、学生募集の現状も厳しいが、引き続き、魅力ある広報活動ができるよう取り組んでいく。

##### 2) 高大連携講座について

###### <八幡高等学校との高大連携講座>

今年度も年間予定に沿って、運営を行った。高校とは年2回評価会議を行い、次年度も今年度の内容を継続した形で進めていく予定である。高校の担当教諭が新しくなり(飯田教諭)、引き続き、コミュニケーションをとって進めていくことと、最終評価会議では、大学の備品や環境が高校生にとってはモチベーションに繋がっているため、備品や環境面への配慮をしながら運営をしていく。また、藍野大学での連携講座との差異を確認するなどして、より興味関心をもって講座が行えるようにしていく。

###### <近江高校との連携講座>

今年度2回となり、昨年同様に別科助産の先生方・学生に協力してもらいながら行った。参加者が1名となり、去年と同じテーマであり参加しなかった生徒もいたため、隔年でテーマを決めて行うなど次年度具体的に検討していく。

###### <私立高校との連携講座>

昨年は3校の生徒(8名)と保護者(2名)の参加があったが今年度は、募集がなかった。周知方法の見直しなどしながら、引き続き実施していく。

##### 3) その他: HP, Facebook、いずみっこの活動

HP, Facebook については、臨時の記事掲載も多くなったが、担当者変更の確認や記事依頼について確認が遅れることもあったため、次年度は早めに修正や依頼をしていく。いずみっこについては、今年度、積極的に活動を行った。学業の合間での活動となるため、学生の成績を気にしつつも、活躍できる場として支援し、その姿が高校生にとって、魅力ある存在となるよう引き続きアドミッション室と連携をとりながらサポートしていく。

以上、委員会活動の1年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

## 2-7 キャリアアップセンター委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：富岡美佳（8月まで），平野明美，高島留美，五十川響，村上美潮（8月まで）

### 2. 所掌事項

#### 1) キャリアアップセンター

- ①講座ビギナーコース・アドバンスコースに関する事項
- ②卒業生研修会に関する事項

### 3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等	備考
1	令和7年4月9日（水） 14：40～15：30	1. キャリアアップ委員会の役割分担・活動計画について 2. ビギナーコース、アドバンスコース講座内容について 3. 卒業生研修会について	
2	令和7年5月7日（水） 14：40～15：20	1. ビギナーコース第1回についてスケジュール・役割確認 2. 研究相談について	
3	令和7年6月4日（水） 14：40～15：40	<b>ビギナーコース第1回開催（9：15～16：00）</b> 1. 講座の振り返り 2. 第2回の役割分担、必要物品の購入手配等 3. 卒業生研修会について	参加者 15名
4	令和7年6月20日（金） 16：30～17：00	<b>ビギナーコース第2回開催（9：30～16：00）</b> 1. 第2回講座の振り返り 2. 第3回講座のタイムスケジュールについて	参加者 15名
5	令和7年7月2日（水） 14：40～16：00	1. ビギナーコース第2回講座のアンケート結果報告 2. ビギナーコース第3回についてスケジュール・役割確認 3. 卒業生研修会について	
6	令和7年7月18日（金） 16：00～16：30	<b>ビギナーコース第3回開催（9：30～16：00）</b> 1. 第3回講座の振り返り 2. 卒業生研修会の案内文郵送について	参加者 15名
7	令和7年8月6日（水） 10：40～11：40	1. ビギナーコース第4回についてスケジュール・役割確認 2. 個別研究サポートの領域配分、教員への依頼について 3. アドバンスコースについて スケジュール・役割確認 4. 卒業生研修会について	
8	令和7年8月21日（金） 14：40～15：10	<b>ビギナーコース第4回開催（9:30～16：00）</b> 1. 第4回個別研究サポートの振り返り 2. アドバンスコースの役割分担、物品の購入手配等	参加者 14名
9	令和7年8月29日（金） 16：10～16：20	<b>アドバンスコース開催（9：30～16：00）</b> 1. 講座の振り返り	参加者 8名

10	令和7年9月26日（金） 9：30～10：40	1. 卒業生研修会について 2. 令和5年度の活動報告書について	
11	令和7年10月16日（月） 13：30～14：30	1. 卒業生研修会について 2. 令和7年度の活動報告書について	
12	令和7年11月18日（金） 13：00～14：00	卒業生研修会 「自尊感情をどう理解し育むか ～ありのままの自分であるために～」近藤 卓氏	参加者 40名
13	令和7年12月4日（金） 17：00～17：30	1. 卒業生研修会の振り返りについて	
14	令和8年1月28日（水） 10：40～11：10	1. 令和8（2026）年度キャリアアップ講座 2. 令和8（2026）年度卒業生研修会について	
15	令和8年3月9日（月） 14：00～14：45	1. 令和7年度キャリアアップ講座案内の発送（121施設）	

#### 4. 委員会総括

キャリアアップ講座では看護研究について、ビギナーコースは看護研究の方法から個別研究相談までの4回開催した。アドバンスコースは、Excelによるデータ処理、基礎統計に変更した。講座の案内は、前年度の3月上旬に発送しており、応募期間内にビギナーコースは15名、アドバンスコースは8名の応募があった。講座は、地域・精神・在宅看護学実習室、母性・小児看護学実習室、コンピューター室を利用した。ビギナーコースの第4回で行った個別研究相談では、4領域の教員が2～4名を担当した。受講者のアンケートではビギナーコース、アドバンスコースともに満足度は高く、具体的に研究方法を学ぶことができたという意見が多かった。

研究相談は、3施設から申し込みがあり、近江八幡市立総合医療センターでは、3題の研究課題に対して2回の指導を行った。また市立野洲病院では、5題の研究課題に対して3回の指導を行った。いずれも、院内看護研究発表会での発表に至ることができた。また、公立甲賀病院から、キャリアアップ講座の個別相談を引き続き相談依頼が1件あった。

卒業生研修会は「自尊感情をどう理解し育むか～ありのままの自分であるために～」をテーマに、日本ウェルネススポーツ大学教授の近藤 卓氏の講演を行った。11月の万聖祭と同日開催とし、参加者は卒業生21名、一般19名の合計40名であった。参加者のアンケートでは、自尊感情について、自分自身と患者に対して育てていく大切さを学んだ、自分のモチベーションが向上した等であった。卒業生研修会の案内は、施設へチラシの発送と、委員会のLINEアカウントから10期生・11期生へ情報提供した。また、万聖祭に参加した卒業生もいたため、当日参加もあったが、研修会テーマや開催時期について今後も検討が必要である。

委員会活動の1年間の活動を振り返り所掌事項とすり合わせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2025 年度  
聖泉大学人間学部  
年次報告書  
学部教員・委員会

## 学部教員活動

(2025年4月～2026年3月)

(以下、学部のメンバーの氏名は下線で示してある)

### 1. 教育活動

唐楽寧 教授

担当科目

前期

「専門演習 C」「プロジェクト演習 C」「上級日本語総合 A」①②「卒業研究 I」

後期

研究生 2名の指導（「専門演習 C」「プロジェクト演習 C」「研究指導」など週 7コマ）

李艶 教授

担当科目

前期

「産業・組織心理学」「リスク・危機管理心理学」

「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習 A・B」「卒業研究 I」

「社会心理学」（大学院）「プロジェクト演習 D-秋入」「専門演習 D-秋入」

後期

「異文化間心理学」「消費者心理学」

「専門演習 B」「専門演習 D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 II」

「家族論」（人間学部、看護学部）

研究生指導

富川拓 准教授

【担当科目】

前期

「社会学概論」「ボランティア論」

「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 C」

「卒業研究 I」

後期

「地域社会学」「家族論」「近江での SDGs の実践」

「専門演習 B」「専門演習 D」「プロジェクト演習 B」「プロジェクト演習 D」

「卒業研究 II」

多胡陽介 准教授

### 【担当科目】

前期「基礎ゼミ C」

「スポーツバイオメカニクス」「防災論」「プロジェクト演習 A」「専門演習 A」

「卒業研究 I」「卒業研究 II（秋入学生）」

後期「プロジェクト演習 B」「専門演習 B」「卒業研究 II」「スポーツバイオメカニクス（再）」

通年「ジョブメソッド」

松田崇志 特任准教授

担当科目

前期

「心理学実験」

「専門演習 C」「プロジェクト演習 C」「卒業研究 I」

後期

「人体の構造と機能および疾病」

「専門演習 D」「プロジェクト演習 D」「卒業研究 II」

小澤克彦 講師

前期

卒業研究 I、プロジェクト演習 A、プロジェクト演習 C、専門演習 A、専門演習 C

後期

卒業研究 II、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 D、専門演習 B、専門演習 D

松原耕平 特任講師

【担当科目】

前期 心理演習，教育学校心理学，プロジェクト演習 A・C，専門演習 A・C，卒業研究 I，  
卒業研究 II（秋入学），卒業研究 II（再）・母子の心理・社会学（別科）

後期 心理実習，発達心理学（学部），発達心理学（大学院），学習・言語心理学（再），プ  
ロジェクト演習 B・D，専門演習 B・D，卒業研究 II

山堀貴彦 助教

授業担当科目

前期：「健康運動実習 C」「看護学部スポーツ実技 A（2クラス）」

後期：「スポーツ実技 B」「スポーツ実技 C」「健康科学演習（トレーニング）」「トレーニ  
ングプログラム作成演習」「健康管理学」「看護学部スポーツ実技 B（2クラス）」

山口隆介 講師

前期：専門演習 A プロジェクト演習 A 専門演習 C プロジェクト演習 C 卒業研究 I  
卒業研究 II（再）

後期：哲学（看護学部科目） 専門演習 B プロジェクト演習 B 専門演習 D プロジェクト  
演習 D 卒業研究 II

## 2. 【研究活動】

唐楽寧 教授

### 【研究活動】

日本社会関連会計学会・スタディグループメンバーとしての研究活動

研究テーマ：「パーパス経営と社会関連会計についての研究」（研究代表者：水野一郎）

第12回研究会：2025年7月29日（火）オンライン発表（19：00～20：30）

### 【学会発表】

日本社会関連会計学会第38回全国大会（2025年11月1日創価大学）

スタディグループ最終報告：「パーパス経営と社会関連会計についての研究」（研究代表者：水野一郎）唐分担：「近江商人の経営理念に学ぶ現代のパーパス経営—社員をはじめ、全てのステークホルダーのために—」

李艶 教授

### 1. 【2025 日本心理学会第89回大会シンポジウム】

2025年9月5日日本心理学会第89回大会でシンポジウムを企画者

テーマ：災害を超えてつながる心 国際的な視点から災害と心理学を考える

### 2. 【公益法人日本心理学会 「文化と心理学研究会」活動】

公益法人日本心理学会の「文化と心理学研究会」の代表として、15年間にわたって研究活動の運営・企画を行った。

2025年度は大阪万博を焦点に、世界規模のイベントにおける異なる文化への理解、受け入れへの促進について、心理的文化的社会的視点から学際的な研究を取り上げる。

### 3. 【公益法人日本心理学会 国際委員会 活動】

公益法人日本心理学会国際委員として、国際共同研究や心理学の国際的活動に参加し、若手研究者の国内外交流を促進し、グローバルな視野での研究とキャリア構築をサポートする活動、グローバルネットワークを拡張・充実させていくために、シンポジウムの開催や国際共同研究の奨励・促進企画などを支援する活動に参加しています。

### 4. 学術大会優秀発表者選考委員

- ・日本心理学会 89回大会 英語論文発表優秀者選考委員会 委員
- ・日本心理学会国際委員会委員選抜メンバー

富川拓 准教授

### 【学会発表等】

- ①第 44 回日本思春期学会学術集会（アートホテル旭川）2025 年 8 月 30 日  
ポスター発表「大学生対象のプレコンセプションケアについての講義を実施した学生への  
フォーカスグループインタビュー結果の検討」  
佐保美奈子・中村美由紀・中谷三佳・中井恭子・富川拓・山口隆介
- ②日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 31 回えひめ大会（聖カタリナ大学）2025 年  
11 月 30 日 ポスター発表 「日本におけるサービス・ラーニングの展開(34)―インター  
スクール型ボランティアサークルにおける学びと成長の考察―」  
山田一隆・大東貢生・富川拓・古川秀夫・柴田和子
- ③日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 31 回えひめ大会（聖カタリナ大学）2025 年  
11 月 30 日 口頭発表 「日本におけるサービス・ラーニングの展開（35）―東京都立K  
高校におけるコロナ禍前後の変化―」  
古川秀夫・山田一隆・大東貢生・柴田和子・富川拓
- ④滋賀県社会福祉学会 第 44 回大会（滋賀県立長寿社会福祉センター）2026 年 2 月 20 日  
分科会座長、審査委員、奨励賞選考委員

### 【競争的資金等】

- ① 研究分担者（研究代表者 大東貢生） 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤  
研究(C) (24K05244)  
「サービス・ラーニングを通じたコロナ後の「地域社会と学校の連携の再構築」
- ② 研究分担者（研究代表者 新矢昌昭） 京都華頂大学・華頂短期大学教育研究活動助  
成金「地方自治体における男子・男性を対象とした男女共同参画政策について」

### 多胡陽介 准教授

#### 【論文】

特集：身体運動のパフォーマンスを最適化する接触・衝突の制御；ラグビーにおけるタックル動作の制御，*体育の科学* Vol75, No9, 678-684, 杏林書院

#### 【学会発表】

幼児の着地衝撃緩衝能に関する予備的研究，第 75 回（2025）日本体育・スポーツ・健康  
学会（於：日本体育大学），8 月 27 日（水）～8 月 29 日（金），ポスター発表

### **[外部資金及び助成金の獲得]**

子どもの着地衝撃緩衝能の発達に関する総合的研究—ふわっと着地する力を育てる—, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 (科研費) 若手研究 (25K16977)

### **[その他]**

幼児の着地衝撃緩衝能に関する予備的研究, 聖泉研究フォーラム (於: 聖泉大学), 9月18日 (木), ポスター発表

#### 松田崇志 特任准教授

- ・ 学会参加 (日本認知心理学会, 日本心理学会)

#### 松原耕平 特任講師

##### **【学会発表】** (シンポジウム)

- ・ 2025年8月 日本認知・行動療法学会第51回大会「未就学児と家族のための認知行動療法—支援の拡充と今後の展開について—」
- ・ 2025年9月 日本心理学会第89回大会「日本ストレスマネジメント学会・日本心理学会連携企画: 学校におけるストレスマネジメント教育の推進と課題」

##### **【学術論文】**

- ・ Let's Learn About Emotions Program: Acceptability, fidelity, and students' mental well-being outcomes for Finnish primary school children. *Children*, 2025, 12(9), 1251.
- ・ Effectiveness of a school-based universal prevention program on self-efficacy and mental health problems in Japanese children: Differences between universal- and indicated-level effects. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health*, (in press).

#### 山口隆介 講師

##### **【論文】**

「「あなたたちの敵を愛せ」—トマス・アキナス『マタイ福音書講解』読解の試み」、『中世思想研究』67号、pp.37-50 (査読あり)

「トマス・アキナスにおけるアガペとエロス」、『宗教と倫理』25号、pp.93-106 (査読あり)

##### **【学会発表】**

2025年9月8日 日本カトリック神学会第37回学術大会（於：日本カトリック神学院）  
『命題集』との対話 ―トマス・アキナス『命題集註解』におけるアガペー―（口頭発表）

2025年10月12日 宗教倫理学会第26回学術大会（於：龍谷大学）「カリクレスに抗して」（口頭発表）

#### 【研究ノート】（学内査読）

トマス・アキナス『命題集註解』1巻第17区分研究ノート(1)、『聖泉論叢』33号

トマス・アキナス『命題集註解』1巻第17区分研究ノート(2)、『聖泉論叢』33号

#### 【紀要への寄稿】

「トマス・アキナス『命題集註解』1巻17区分第1問第4項から第2問第1項までの翻訳」、京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター紀要『MARANATHA マラナタ』32号、pp.15-33

#### 【学内フォーラム】

2025年9月18日 聖泉研究フォーラム（於：聖泉大学）「トマス・アキナスの聖書註解研究を通してキリスト教的愛におけるエロース的な面を明らかにする試み」（ポスター発表および口頭発表）

#### 【研究活動】

2025年2月より開始したロンバルドゥス勉強会に2025年度（2025年4月～2026年3月）も参加。

### 3. 【地域貢献】

#### 唐楽寧 教授

##### 【地域活動】

- ・彦根市企業立地審査会委員
- ・独立行政法人国立病院機構・東近江総合医療センター地域医療支援病院運営委員会委員

#### 李艶 教授

- ・京都府国際交流協会活動  
相談員（ボランティア）
- ・滋賀県基本構想審議会委員

#### 富川拓 准教授

- ・滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが 「ジェンダー平等ミーティング」 アドバイザー
- ・滋賀県彦根市男女共同参画審議会 委員（副会長）
- ・滋賀県甲賀市男女共同参画審議会 委員
- ・滋賀県守山市人権尊重のまちづくり審議会 委員

#### 多胡陽介 准教授

##### 【委員】

- 湖東定住自立圏共生ビジョン KPI 外部評価 委員
- 彦根市運動推進委員会 委員
- 彦根市地域支援会議 委員
- 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会 委員
- 米原市スポーツ推進審議会 副会長

##### 【講師】

- 講師『稲枝地区健康推進委員研修会 体力測定と介護予防運動で健康知識を身につけよう～いずみ体操をみんなで～』彦根市稲枝地区公民館，9月25日）

#### 小澤克彦 講師

##### 地域貢献

- ・学習支援活動（毎週 月曜日 19:00～21:00 中地区公民館）
- ・学習支援活動（不定期 金曜日 19:00～20:30 彦根 男女共同参画センター）

#### 松原耕平 特任講師

- ・ ころあっぷ指導者養成研修会 講師, 一般社団法人青少年のための心理療法研究所, 2025年7月27日.
- ・ 京都府地域福祉推進課主催研修会 講師, 京都府地域福祉推進課, 2025年11月26日.
- ・ ころあっぷ指導者養成研修会 講師, 一般社団法人青少年のための心理療法研究所, 2026年2月28日.

山口隆介 講師

プロジェクト演習を通じてゼミ生たちに国体ボランティア参加を指導した。

**委員会活動**  
(2025年4月～2026年3月)

**2-1 教務委員会**

1. 構成メンバー

- 1) 委員：富川拓（委員長）、松原耕平（副委員長）、多胡陽介、山口隆介
- 2) 事務局：伊藤茂賢

2. 所掌事項

教務に関する事項

- 「ガイダンス、履修指導」「試験」「卒業研究」「Grow-Up Week」
- 「カリキュラム」「履修要項」「シラバス、シラバスチェック」
- 「学籍異動」「科目等履修生、聴講生、研究生」
- 「公認心理士科目（公認心理士委員会との連携）」
- 「その他、教務に関する事項全般」

3. 委員会活動

第1回人間学部教務委員会	4月22日（火）開催
第2回人間学部教務委員会	5月13日（火）開催
第3回人間学部教務委員会	6月2日（火）開催
第4回人間学部教務委員会	7月22日（火）開催
第5回人間学部教務委員会	8月22日（火）開催
第6回人間学部教務委員会	8月26日（火）開催
第7回人間学部教務委員会	9月16日（火）開催
第8回人間学部教務委員会	10月28日（火）開催
第9回人間学部教務委員会	11月25日（火）開催
第10回人間学部教務委員会	12月16日（火）開催
第11回人間学部教務委員会	1月27日（火）開催
第12回人間学部教務委員会	2月24日（火）開催
第13回人間学部教務委員会	3月3日（火）開催
第14回人間学部教務委員会	3月17日（火）開催

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り、委員会の任務とすりあわせ、自己点検評価を行った。適切に業務が遂行できたことを確認した。

## 2-2 学生委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山堀貴彦
- 2) 委員：小澤克彦、岡野太郎

### 2. 所掌事項

- 1) 学生生活に関わる業務
  - ・学生の自主活動(課外活動・ボランティア等)に関わる業務
  - ・学生の自治(学友会・学園祭・卒業パーティー)に関わる業務
  - ・学生の団体(クラブ・同好会等)に関わる業務
  - ・学生の健康に関わる業務
  - ・学生の安全にかかわる業務
- 2) 奨学金(外部)にかかわる業務
- 3) 学長表彰・学長奨励表彰にかかわる業務

### 3. 委員会活動

例年通り上記業務に係る諸活動が行われた。

### 4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

## 2-3 進路支援委員会

### 1. 構成メンバー

委員長：多胡陽介、委員：松田崇志、小澤克彦、秋山茂也、西村慎也

### 2. 所掌事項

学生の進路支援に関わる業務、資格取得・検定試験合格等の支援に係る業務

### 3. 委員会活動

4月	第1回委員会 (5/14) 議事：令和7年度の役割分担、4回生の進路面談、ジョブメソッドの年間計画、就活エージェントの利用状況等
5月	第2回委員会 (6/18) 議事：今後の4回生に対する支援について、ジョブメソッドの状況について
6月	第3回委員会 (7/16) 議事：4回生面談の進捗状況と今後の支援について、インターンシップの申し込み状況について、しがジョブフェアについて
7月	第4回 (10/1) 議事：4回生および3回生の今後の支援について、4回生の就職活動状況について、びわ湖東北部地域連携協議会「しごと発見!」、公務員対策講座、ビジネス実務マナー検定等
10月	第5回 (11/12) 議事：公務員試験対策講座助成制度、4回生の今後の支援について、3回生進路面談について、4回生の就職活動状況について、令和8年度進路支援委員会予算等
11月	第6回 (1/21) 議事：4年生の進路状況と今後の支援について、3年生進路面談について、卒業生を対象とした進路相談について、進路関係図書購入について、27卒向け合同企業説明会参加状況について等
3月	第7回 (3/5) 議事：令和7年度進路支援委員会総括について、4年生の進路状況と今後の支援について等

### 4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

## 2-4 紀要委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：松原耕平

### 2. 所掌事項

『聖泉論叢』に関わる業務

- ・『聖泉論叢』発行に関わる業務
- ・『聖泉論叢』頒布に関わる業務

### 3. 委員会活動

4月	第1回委員会 本年度スケジュールと役割分担を審議、確定。
5月	第2回委員会 業務状況確認。
6月	第3回委員会 業務状況確認。
7月	7/25 紀要投稿希望者調査終了
8月	第4回委員会 投稿希望調査結果報告。投稿希望者全員に執筆依頼。
9月	9/5『聖泉論叢』原稿回収。第5回委員会 原稿確認及び査読方法の検討
10月	査読者選定作業
11月	査読者選定作業。下旬に一部査読開始
12月	査読者選定作業。査読結果返却および修正期間。
1月	聖泉論叢発行に向けての作業および査読者と執筆者による改稿作業
2月	聖泉論叢発行に向けての作業
3月	『聖泉論叢』33号発行と頒布

### 4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以上

## 2-5 公認心理師委員会

### 1. 構成メンバー

- 1) 委員長：李艶
- 2) 委員：松田崇志、松原耕平、岡野太郎

### 2. 所掌事項

聖泉大学人間学部における公認心理師養成に係る業務

### 3. 委員会活動

- 心理実習施設について【5領域】
- 心理実習に係る学生保険の検討を行った。
- 心理実習に係る公欠手続きについて検討を行った。
- 心理実習事前・事後学習のスケジュールと内容について検討を行った。
- 心理実習要項について検討を行った。
- 心理実習マニュアルの改訂を適時行った。
- 院試対策マニュアルの改訂を適時行った。
- 心理実習記録簿の改訂を適時行った。
- 「心理実習」報告書を作成した
- 年度の総括

#### 2025年度会議の主要な内容

2025年11月11日

- ・上記のほか、公認心理師科目にかかる厚生労働者アンケートへの協力
- ・現在希望学生の全般状況
- ・実習先（NTT西日本）における実習費用の確認、費用が大幅に増加する可能性への対応についての検討

### 4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以上